

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

January / 9 / 2015 # 22

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『目標』

[2] Pepeのひとりごと

『厳しいって?』

[3] おすすめ動画

『Goodman Tuba Concerto; Mvts 1&2--Aaron Tindall, tuba; U.S. Army Orchestra』

『Kent Eshelman plays Tuba Concerto by James Stephenson』

[4] 演奏のヒント！

『きれいな音で』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『目標』

みなさま、新年あけましておめでとうございます。
今年もよろしく願いいたします。

新しい年を迎えるにあたって、目標などは立ててみましたか？
大小に関わらず、これを機に何か目標を作ってみると、毎日のいい刺激になりますよ。 ;)

実は僕、今年1月より非常勤講師として地元の私立高校の吹奏楽部の顧問として活動することになりました。

昔からお世話になっている先生からの引き継ぎなのですが、これまでその先生が作ってこられたものを生かしつつ、僕ならではのものもどんどん出して盛り上げていこうと思っています！ ;)

今現在1、2年生で15名くらいの部員数なのですが、みんなとても真面目でいい活動ができそうです！

少数精鋭なバンドを目標とし、今月から頑張ります！ :D

まずは夏の吹奏楽コンクールでの演奏曲を考えないとなあ・・・（笑）。
どなたか、小編成用のいい曲があればぜひ教えて下さいね～！ ;)

[2] Pepeのひとりごと

『厳しいって？』

「厳しい」と一言と言っても、いろいろありますよね。

厳しい＝怖い

という感覚の人も多いと思います。

僕のレッスンは、決して怖くはないけど、厳しいとは思いますが。;)
怒ったり怒鳴ったりはしないけど、合格ラインが低くない、という厳しさです。 ;)

ここはこだわりを持っているところなのですが、甘い状態で練習していると、結局本番で困るのは自分たちなんですよねえ。
なので、僕はその時の生徒の状態で「必ずできるところ」を合格ラインとしてハードルを設けて、レッスンを進めていくようにしています。

僕は、吹奏楽部の高校生に対しては自分たちの自主性を考慮して（自主性に期待して?）、「やらす」レッスンというのはしていません。

どのような練習をすればいいのか、どうすれば音が変わるのか、演奏が変わるのかはやりますが、それを続けていくためのことに関しては、説明だけをして「やりましょう！」というスタンスでやっています。

それは、僕の中に「高校生になればそれらは自分たちでやっていかないと、本番の時、ステージの上で自分たちで演奏なんてできないよ」と考えているからです。

あと、レッスンに行っている学校同士での（結果としての）演奏に差が出るのは、このあたりの差だと考えているからです。

この辺りも、僕の持っている「厳しさ」です。

しかし、残念ながらここ最近、高校生たちへも中学生以下の子たちのようにしっかり側に付いて、できるようになるまで、でき続けるようになるまで一緒にやっついていかないといけないのかなあ、と思うところが多いのです（涙）。

なので、今年からはレッスンをする団体によっては今までのやり方から一ランク下げたレッスンをやろうと思っています。

ある意味「甘いレッスン」。

でも、できるまで側にいて一緒にやるので、ある意味「より厳しい」レッスンということになりますね。

やってみないとどうなるのかわかりませんが、いくつかのところではしばらくこういうスタイルでレッスンを進めていこうと思っています。：)

P.S. やっぱり本番で実力を出してもらいたいですからね！

[3] おすすめ動画

『Goodman Tuba Concerto; Mvts 1&2--Aaron Tindall, tuba; U.S. Army Orchestra』

[https://www.youtube.com/watch?](https://www.youtube.com/watch?v=zQZ5Rq8zDIw&index=1&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg)

[v=zQZ5Rq8zDIw&index=1&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg](https://www.youtube.com/watch?v=zQZ5Rq8zDIw&index=1&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg)

今月の動画は、Tubaのコンチェルト（協奏曲）の動画を2つ！

ソリストは2人とも、アメリカのチューバ奏者です。

一つ目は、去年日本に来日してマスタークラスやコンサートなどもして話題にもなったAaron Tindall氏の演奏で、Goodman作曲のコンチェルトです。

吹奏楽伴奏なので、日本でも演奏の機会が多く持てそうですね！

Aaronは相変わらず素晴らしい演奏をしています！！：)

『Kent Eshelman plays Tuba Concerto by James Stephenson』

[https://www.youtube.com/watch?](https://www.youtube.com/watch?v=T7n3ySuSNX4&index=3&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg)

[v=T7n3ySuSNX4&index=3&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg](https://www.youtube.com/watch?v=T7n3ySuSNX4&index=3&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg)

2つ目は、Kent Eshelman氏の演奏で、Stephenson作曲の

コンチェルトです。

コンチェルトとしては珍しい、金管5重奏（ソリスト含む）という編成です。

Kentは安定した技術を持った奏者で、人間もすごくいい人ですよ。
演奏にも真面目なところがよく出ていますね（笑）。

今は金管5重奏団を組んでいる人がたくさんいますよね。
そういう人はぜひこういう曲もレパートリに入れて行って、低音
金管楽器界を盛り上げていきましょう！！:D

[4] 演奏のヒント！

『きれいな音で』

「きれいな音で演奏するにはどうしたらいいですか？」
という質問をいただくことがたまにあります。
今回はこれについて少し書きますね。

いい音で演奏するためには、まず「何がいい音なのか？」と
いうことを知らなければいけません。
これを考えるときによく聞く質問が、「いい音ってなんですか？」
というもの。

これは人に聞くものではありません（笑）。
参考にするといい演奏を教えてもらうことは歓迎しますが、
「この音だ！」と教えてもらうのは僕は違うと思っています。
それに、それだと後々自分の音楽家人生において障壁ができて
しまう可能性がすごく高くなってしまいますよ。

まずは、たくさんの演奏（音源）を聴きましょう。
自分の楽器の演奏だけではなく、いろいろな楽器の演奏を聴いて
みると、そこから自分の楽器の「いい音」というものがなんとなく
見えて（聴こえて？笑）きますよ。:)

もう一つ、いい音だけにこだわらないで、いろいろな音を出せる
ように練習してみてください。
いい音を出したいということは、今の音からいい音へ「変えたい」
ということですよね？
音や音色を変えることは、テクニカルなことになってきます。

どうすればいいか？
まずはいろいろなシラブルで吹いてみることをしてみてください。
*シラブルとは、楽器で音を出している（出すとき）時に口の中で
発音している言葉のことを言います。

このとき、いい音（きれいな音）ばかり狙わないで、「音を変える」
ことに注目してみてください。

汚い音や響きの少ない音になってもいいんです。そのときにやることは、「意識して音色を変えることができるかどうか」です。まずは自分の思い通りに音をコントロールできるように練習してみましよう。

それらができるようになると、自然によく響く音で吹き続けることもできるようになってきますよ！！ :D

こう説明すると、まずロングトーンでやってみる人がほとんどだと思います（笑）。

それだとなかなか行きたいところまで到達しませんよ～！ :)
今練習している曲（もちろんエチュードでも可）の中で、ぜひやっていってくださいね！！

編集後記

前号のこの欄で書いた、スペインの「Romera Brass」で作ってもらっているマウスピースのことですが、試作品（最終型??）ができて送ってもらっているのですが、まだ手元に届いていません・・・（涙）。

この年末年始の郵送物が多い時期にまみれているようです。まあ、遅れてもいいから無事に届いてもらいたいと願っています。

それに関しても、できれば3月か4月には日本で発売となるよう頑張ろうと思っています！！

リリースされたらまたお知らせしますね。
その時はぜひEuphonium吹きのみなさん、よろしく
お願いします！ :)

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com